湘南医療大学　ティーチング・ポートフォリオ

大学名　湘南医療大学
所　属　保健医療学部　看護学科
名　前　小野寺悠斗
作成日　2026 年 5 月 29 日

1. 教育の責任

本学は「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」を理念に掲げており、継続的学習力、想像力、課題解決能力を育む「幅広い教養教育」とエビデンスに基づく専門知識・技術の習得を基盤にした実践力を身につけることを使命としている。講師として 3 年目を迎えた今年度は、昨年度に引き続き精神看護方法論、統合実習、精神看護学、病態学IV、慢性期看護実習、看護研究、プロフェッショナル論Ⅲを担当し、講義・演習・実習指導を通じて学生の実践力と専門性向上に努めている。また、精神看護専門看護師としての臨床経験を活かした事例提示も継続して行っており、学生の臨床判断力・関心を高める教育活動を展開している。さらに、学生支援においても、継続的に学生の自律を促す関わりを行っている。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私の理念は二つある。一つは、さまざまな物事に関心を持てる学生を育てたいと考えている。看護においては、対象を理解することが非常に重要であると考える。特に精神看護の対象者は、さまざまな年代や価値観を有する人たちである。それらの人々の心を理解し、支援するには、他者の価値観や考えを柔軟に受け入れる必要がある。そのためには、さまざまな物事を理解しようとする姿勢や知識を得ようとすることが必須であると考える。

もう一つは、「心を理解すること」は単に感覚的に相手の気持ちを捉えることではないという点である。看護専門職には、対象者の心理や行動を、発達段階や心理機能、疾病との関連など、医学的・心理学的知識や理論に基づいて理解する姿勢が求められる。人の心は、自分と他者で異なるものであり、この前提を理解することが重要である。しかし、相手の気持ちを想像しただけで「理解できた」と捉えてしまったり、反対に「他者の気持ちは分からない」と関わることを諦めてしまったりすることも少なくない。そのため、看護師には専門的知識を基盤として、対象者との関わり方を多角的に考察し、適切に支援できる力が必要である。

したがって、この 2 点を基盤にして、学生が人を理解しようとする姿勢と専門職としての実践力を育めるよう支援していきたいと考える。

2) 理念をもつに至った背景

関心が持てる学生を育てたいと思った背景には、能動的な学習が行える学生になってほしいと感じたことが理由である。私自身も学生の時には、課題をこなすということに追われていた経験がある。しかし、臨床で学ぶうちにさまざまな経験から多くのことを学び、自分の関心が高められれば知識が深まっていくことが実感できた。また、実習を通し、学生が疑問をもち自主的に学びを深める様子を見てきたこともこの理念を持つに至った背景である。学習を効果的にするためには、学生にいかに関心を

持たせられるかを検討していく必要がある。精神看護に関心を持つ学生が増えることで、精神疾患を抱える人々を取り巻く課題についても考えることができる。さらに、精神疾患への正しい理解が広まることは、さまざまな精神疾患に悩む人々の支援を豊かにすると考える。

もう一つの理論や医学知識を持ってほしいということには、看護師は専門職だからという考えが背景にある。感じるままに対応することは、看護師でなくとも可能と考える。目には見えにくい疾患だからこそ、学生はなんとなく感じたままに対応をしてしまいがちではあるが、専門家として科学的根拠に基づいた実践が行えるよう指導してきたいと考える。そして、どの領域でも科学的根拠に基づいた看護は求められており、精神看護においても例外なくそれが必須であると言える。

3. 教育の方法・戦略

教授方法においては、知識を基盤にした上で、得た知識から事象を考えることができるように設計している。学生が主体的に参加でき、授業中の知識を実習や演習で活用し、自分の技術として身につけられるようにしている。そのため、講義から演習、そして実習に繋げることを常に意識している。また、今までの臨床経験を活かし、過去に経験した事例を取り入れることで学生が体験していない状況をリアルにイメージできるように設計している。さらに、領域ごとの分断を生じさせないように一貫してさまざまな場面での活用や対象理解の必要性などを具体化して説明することを意識している。これらは、アクティブラーニングを取り入れた実践をいとしており、以下にその具体的な授業の工夫を示す。

授業の工夫

・グループディスカッション：グループメンバーが発言しやすいように全体の発言のハードルを下げたディスカッションテーマを設定している。そして、授業の深度に応じたテーマを設定し、徐々にディスカッションが深化していくように設定している。

・小テスト：知識の定着を意図し、実施している。講義中も小テストに挙げている内容については強調し、学習を促している。また、小テストの事項に関しては演習や実習で再度発問し、授業内容を思い起こさせることと知識の定着の確認を行なっている。

・ロールプレイング：具体的な状況をイメージすることで、患者の理解を深めることやその時の学生の行動の意味を洞察できるように意図している。また、リアルなロールプレイを実施することで、実習を想定した緊張感を感じることや患者と向き合う際の学生自身の気持ちに目を向けさせる狙いがある。

・事例を通した具体的事象の説明：学生が経験したことのない精神障害を持つ人との関わりをイメージしやすくするために行う。また、患者の行動の意味や看護師の支援の意図を伝え、臨床における看護を理解してもらう。

授業以外の諸活動

本学の授業以外での役割としては、今年度も引き続きチューター教員として学生支援を行っている。学生の希望や特性に応じて助言を行ない、学生が自立できるよう支援している。また、学外の活動としては、精神看護専門看護師として所属学会の委員会活動や自身の研究成果を生かした研修会の講師などの活動を行っている。これらの学内外の活動は、学生の支援にも生かすことができている。

自己研鑽

昨年度に引き続き、今年度も学会・研修会への参加を継続し、専門知識の更新に努めている。また、2026 年度は論文投稿及び学会発表を予定しており、教育内容の充実のため自身の教育力を磨くことも行っている。

4. 学習成果

2025 年度の授業評価において、学生からの自由記述では「具体的なイメージが持てた」「精神看護に興味が持てた」「理解しやすかった」といった声が見られた。今後はこうした学生の反応を基に、教育内容のさらなる改善を図る。

5. 改善のための努力

昨年度の授業評価を受け、課題の提出方法やグループワークの方法を見直した。学生の理解促進と実習で知識を活かせるように、より事例に即した具体的な指導を行なった。今年度の修正点の評価を確認しながら、次年度以降もより学生が理解しやすい授業を展開していく。

6. 今後の目標

【短期目標】(評価:2027 年3月)

・教育方法のさらなる洗練(評価指標:授業評価スコア、自己・同僚評価)

・2026 年度内に論文を投稿する

・精神看護の魅力を伝える授業設計の強化

【長期目標】

・教育内容・方法のエビデンス化と学会発表

・学生の関心向上と精神科看護領域への進路選択を促す教育プログラムの開発

【添付資料】

なし